

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑩

1月検針分（主に11・12月使用分）

用途別の影響

令和3年1月の検針データを前年同月と比較すると、下表のとおりとなります。

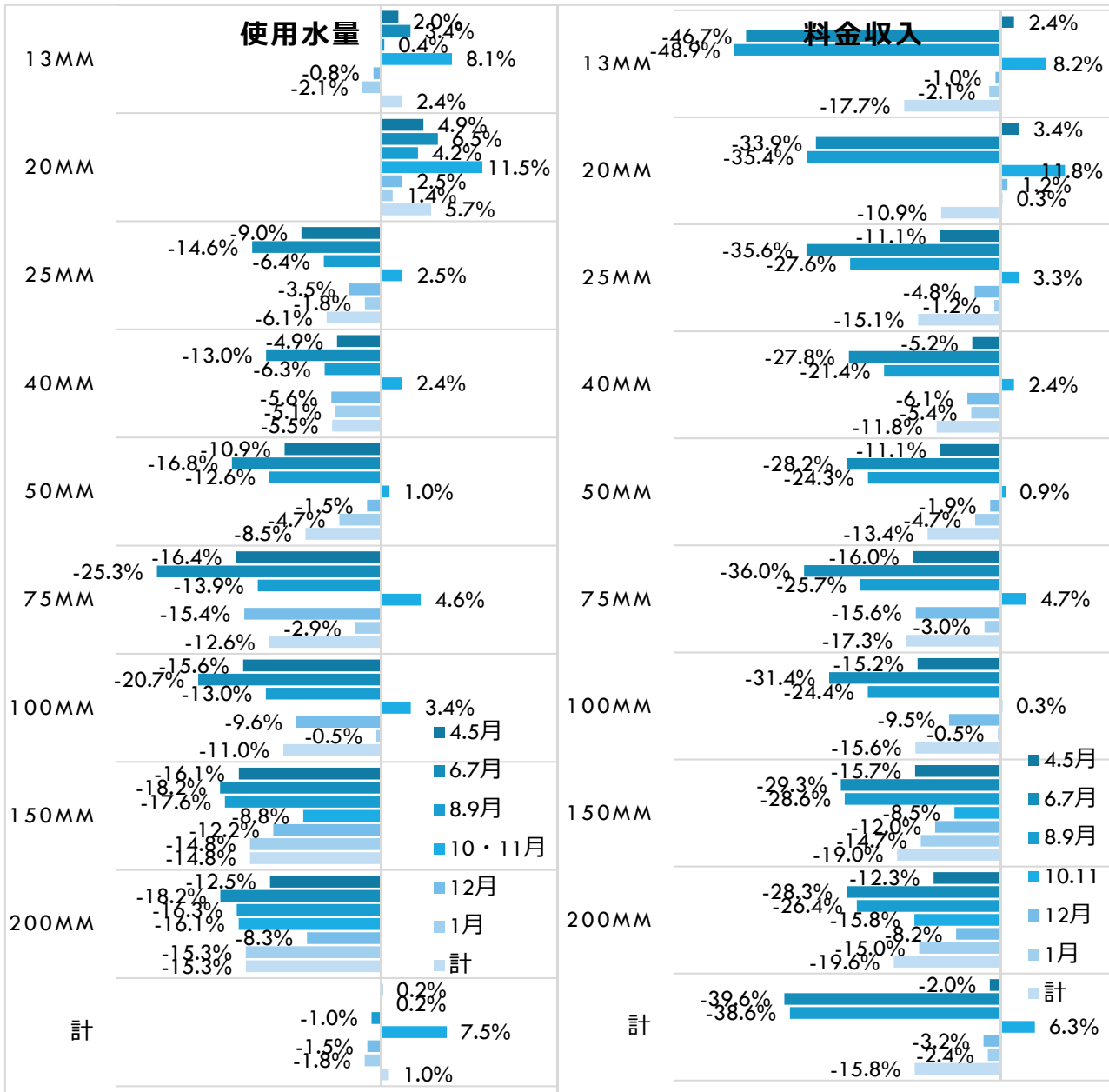
4、5月は、主に家事用に用いられる口径20mm以下のメーターでは水量、金額ともに増え、主に業務用となる口径25mm以上のメーターではともに減少、6～9月は、全体的に水量、料金ともに減少となりましたが、10、11月分は、20mm以下、25mm以上ともに水量、金額ともに増加しました。しかし、12月検針分に続き1月検針分も減少になりました。

料金は、使用水量も減ったことから、約410万円、約2%の減収となりました。ただし、同じ対象者の11月検針分と比較すると、使用水量は20,800m³の増加、料金も約110万円の増加となっています。11月からの新型コロナウイルス感染症第3波の影響については、慎重に見極める必要があります。

検針年	区分	1月検針分（11・12月使用分）		
		20mm以下	25mm以上	合計
R1 (H31)	水量 (m ³)	1,268,302	215,384	1,483,686
	金額(税抜き:円)	125,798,365	48,590,360	174,388,725
	供給単価(円)	99.19	225.60	117.54
R2	水量 (m ³)	1,251,138	206,059	1,457,197
	金額(税抜き:円)	123,807,725	46,447,310	170,255,035
	供給単価(円)	98.96	225.41	116.84
増減	水量 (m ³)	△ 17,164	△ 9,325	△ 26,489
	増減率	△1.35%	△4.33%	△ 1.79%
	金額(税抜き:円)	△1,990,640	△2,143,050	△ 4,133,690
	増減率	△1.58%	△4.41%	△ 2.37%
	供給単価(円)	△ 0.23	△ 0.19	△ 0.70
	増減率	△0.23%	△0.08%	△ 0.60%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 20 mm以外の口径で使用水量、料金収入ともに減少しています。4月からの合計では、水量は、1.0%とわずかに前年度を上回りますが、料金は15.8%、減額措置の影響を差し引いても1.1%減少しています。



結論

使用水量合計の変動率は、△1.8%であり、令和元年度の変動率の範囲（月△4.2%～+2.5%）内ですが、10,11月に見られた回復傾向から、再び減退傾向となっています。緊急事態宣言の影響が検針データに表れるのは、来月以降であり今後の動向には注意を払う必要があります。